

行政視察報告書

令和6年7月11日

長浜市議会議長様

長浜市議会議員 藤井 登

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

1. 視察等名 恵風会行政視察
2. 視察期間 令和6年7月8日(月)～7月9日(火)
3. 視察場所及び目的
 - ①広島県三次市庄原市 一般社団法人三次地区医師会医療センター
備北メディカルネットワーク医療連携について
 - ②香川県三豊市 みとよ市民病院
完全個室化病院の運営について
 - ③兵庫県淡路市 のじまスコーラ
閉校後の施設利活用について

4. 調査内容感想等

- ①広島県三次市庄原市 一般社団法人三次地区医師会医療センター
備北メディカルネットワーク医療連携について

・視察の目的

視察の目的は、地域医療連携推進法人の病院を訪問し、本市が抱える医療問題を解決する糸口を見つけるためにお話をお伺いすることです。医師の専門志向による偏在が医師不足の一因となっている中、医師のキャリアプランを支援する環境整備が重要です。本市も同様の課題を抱えているため、地域医療連携推進法人の取り組みを参考にし、具体的な対策を学びました。



・視察の内容

広島県北東端の備北医療圏は、三次市と庄原市を含む約 2000 km²の山間部に 10 万人が住む二次医療圏です。備北メディカルネットワークは、市立三次中央病院、庄原市立西城市民病院、三次地区医療センターの 3 つの急性期病院を社員として設立された地域医療連携推進法人です。交通の便が悪い中、専門医療の「均てん化」から「集約化」が進む一方、住民は地元での医療サービスを望んでいます。

また、地域医療連携推進法人のメリットとデメリットについてのお話がありました。

メリット

1, 医療資源の集約と効率化

備北メディカルネットワークは、三次中央病院、庄原市立西城市民病院、三次地区医療センターの 3 つの急性期病院が連携しています。これにより、各病院の専門性や設備を有効に活用し、無駄のない医療資源の配分が可能となります。

2, 高度医療の提供

各病院の専門分野を活かし、地域住民が高度な医療サービスを受ける機会が増えます。例えば、緊急時には最適な病院に迅速に患者を搬送できる体制が整います。

3, 患者の利便性向上

患者が適切な医療機関にスムーズにアクセスできるよう、紹介システムや医療情報の共有が促進されます。これにより、診療の待ち時間が短縮され、必要な治療を迅速に受けることができます。

4, 医療の連続性と質の向上

各病院間での継続的な情報共有により、患者の治療計画が一貫して実施され、医療の質が向上します。

5, 経営の安定化

複数の病院が協力することで、財政的なリスクが分散され、各病院の経営基盤が安定します。

デメリット

1, 連携の調整が難しい

各病院が独自の運営方針や医療文化を持っているため、連携を円滑に進めるためには調整が必要です。これには時間と労力がかかります。

2, 意思決定の遅延

重要な決定を下す際に、複数の病院間での合意が必要となるため、迅速な対応が難しくなる場合があります。

3, 初期投資と運用コスト

医療情報の共有システムや連携体制を構築するための初期投資が必要となり、運用コストも増加します。

4, 独自性の喪失

各病院が連携することで、個々の病院の特色や独自のサービスが薄れる可能性があります。

5, 責任の曖昧さ

連携の中で問題が発生した場合、責任の所在が不明確になり、問題解決が困難になることがあります。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

1, 地域医療連携の強化

連携体制の構築: 湖北圏域の ABCD 病院や診療所が連携し、情報共有や患者紹介システムを構築します。

専門医療の集約: 特定の病院に専門医療を集約し、高度な治療を提供できる体制を整えます。

2, 医療資源の効率的利用

設備の共有: 病院間で医療設備を共有し、重複投資を避けることでコストを削減します。

3, 住民の利便性向上

アクセス改善: 地域内の交通手段を整備し、住民が医療機関にアクセスしやすい環境を整えます。

情報提供: 医療機関のサービス内容や専門分野について住民に周知し、適切な医療機関を選びやすくします。

4, 医療の質と連続性の確保

電子カルテの共有: 地域内の医療機関で電子カルテを共有し、患者の治療情報を一元管理します。

統一治療計画: 患者ごとに統一した治療計画を策定し、各医療機関が連携して治療を進めます。

5, 経営の安定化

財政支援: 公的資金や補助金を活用して、医療機関の経営基盤を強化します。

リスク分散: 病院間で経営リスクを分散し、経営の安定性を高めます。

6. 住民ニーズの対応

地域密着型医療：住民が求める医療サービスを地域内で提供できるよう、地元の医療機関を強化します。

意見収集：住民の医療ニーズを定期的に調査し、それに基づいて医療サービスを改善します。

これらの施策を実施することで、湖北圏域においても地域医療の質を向上させ、住民が必要な医療サービスを受けやすい環境を整えることができるかもしれません。

備北メディカルネットワークは、地域住民に高度で一貫した医療サービスを提供するために有効な体制ですが、連携のための調整やコスト、意思決定の遅延などのデメリットも存在します。これらのメリットとデメリットを理解し、効果的な連携体制を維持することが重要です。再編のための一つの方法として多くを学びました。

②香川県三豊市 みとよ市民病院

完全個室化病院の運営について

・視察の目的

長浜市立湖北病院の建て替えに際し、完全個室制を導入します。この度、同様の先進事例としてみとよ市民病院を視察し、導入のメリット・デメリットについてお伺いすること、施設を見学させていただくことが目的です。



・視察の内容

1. 病院の概要

- みとよ市民病院は、老朽化が指摘されていた永康病院に代わる市立病院として新しく開院しました。
- 県道 23 号線沿いに位置し、アクセスが良好です。

2. 病院の特徴

- 病室が全て個室であることが最大の特徴です。
- 個室にはトイレ付きの部屋とトイレ無しの部屋があり、追加料金なしで利用できます。この点は公立病院として非常に珍しいです。今後は値上げが必要かもしれないというお話でした。

3, 感染症対策

- 病室が個室であるため、感染症対策の観点からも安心です。
- 屋上庭園があり、患者のリラックススペースとして活用されています。
- 感染症対策用の待合室は通常待合室と別に設置され、椅子ごとにパーティションで区切られています。この対策により、利用者に強い安心感を提供しています。

4, 診療開始日

- 令和4年5月1日入院診療開始
病床数 122 床 (一般 46 床 療養 46 床 精神 30 床)
みとよ市民病院は令和4年5月9日から外来診療を開始いたします。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

1, 完全個室化について

みとよ市民病院の視察から得た情報を基に、本市の新病院においても全室個室化におけるの考慮。

- 個室化のメリット: プライバシーの保護、感染症対策、患者の快適性向上。
- 費用対効果: 個室化による追加コストとその効果を比較し、予算内での実現可能性を検討します。
- 設備の設計: トイレ付きの部屋とトイレ無しの部屋の割合を決定し、バランスの取れた設計を行います。

2, 感染症対策の強化

みとよ市民病院の感染症対策を参考に、本市の新病院でも強化策を導入します。

- 個室化: 感染症対策として有効な個室化の実現。
- 待合室の分離: 通常待合室と感染症対策用待合室を分離し、パーティションで区切ることで感染リスクを低減します。
- 衛生管理の徹底: 消毒ステーションの設置や空気清浄システムの導入を検討します。

3, 病院の機能と設備の充実

みとよ市民病院の特徴的な設備を参考に、本市の新病院でも快適な環境を提供します。

- **屋上庭園**: 患者や家族がリラックスできる屋上庭園の設置。
- **最新の医療機器**: 最新の医療機器や技術を導入し、診療の質を向上させます。
- **快適な待合室**: パーティションで区切られた椅子を設置し、患者のプライバシーと安心感を確保します。

4、病院の規模と診療科の設定

みとよ市民病院の病床数や診療開始日を参考に、本市の新病院の規模と診療科を設定します。

- **病床数の決定**: 一般病床、療養病床、精神病床のバランスを考慮し、適切な病床数を決定します。
- **診療開始日**: 入院診療と外来診療の開始日を計画し、市民に周知します。

5、市民への広報と期待の喚起

みとよ市民病院が市民の健康を支えることを強調したように、本市の新病院も市民にとって重要な存在であることを広報します。

- **広報活動**: 市のウェブサイトや広報紙、説明会を通じて新病院の情報を提供します。
- **市民の期待の喚起**: 新病院が市民の健康と福祉に寄与することを強調し、期待感を高めます。

これらの施策を通じて、視察結果を本市の新しい市立病院の導入に反映させ、より良い医療サービスの提供を目指します。

③兵庫県淡路市 のじまスコーラ

閉校後の施設利活用について

・視察の目的

2012年8月に「のじまスコーラ」として生まれ変わった淡路市立野島小学校を視察し、地域の活性化に向けた成功事例を学ぶことを目的としています。野島小学校は、阪神淡路大震災の震源地である野島断層の近くに位置し、その歴史的背景を活かしてリノベーションされました。



・ 視察の内容

1, 施設のリノベーション

- 2012年8月に「のじまスコーラ」として再生された経緯とプロセスを確認。
- リノベーションによってどのような施設が整備されたか、具体的な内容を学びました。
- 自然、アート、美味しい料理を提供するための施設配置やデザインの工夫について視察しました。

2, 地域活性化の取り組み

- かつての校庭で復活した盆踊りの様子やその運営方法を見学しました。
- 校舎を利用した料理教室の内容やその効果について説明を受けました。

3, 多世代交流の促進

- あらゆる世代に愛される空間としての具体的な施策について、担当者からの説明を受けました。
- 屋内外の施設利用状況や多世代交流の実例を見学しました。

4, 震災の歴史的背景の活用

- 阪神淡路大震災の震源地である野島断層の近くに位置するという歴史的背景をどのように活用しているかを学びました。
- 震災の記憶を継承し、地域のシンボルとしての役割を果たすための取り組みについて視察しました。

5, 今後の情報発信と地域貢献

- 地域活性化のシンボル拠点として、今後の情報発信の計画や地域貢献の具体的な方針について説明を受けました。

この視察内容を通じて、「のじまスコーラ」の成功事例から得られる知見を本市の地域活性化に反映させるための具体的な方策を検討したいと思います。

・視察の内容をどのように本市に反映させるか

1, 施設のリノベーションと活用

目的: 廃校や未利用の公共施設を地域のシンボルとして再生し、多世代交流の場とする。

方法:

- 施設調査: 廃校や未利用の公共施設の現状を調査し、リノベーションの対象を決定します。
- リノベーション計画: 「のじまスコーラ」の事例を参考に、自然、アート、飲食を楽しめる複合施設としてのリノベーション計画を策定します。
- デザインと機能: 地域の特色や歴史を活かしたデザインを採用し、多世代が利用できる機能を持たせます (例: カフェ、アートギャラリー、コミュニティスペース)。

2, 地域イベントの復活と新設

目的: 地域住民の絆を深めるためのイベントを企画・実施し、地域活性化を図る。

方法:

- 伝統行事の復活: 「のじまスコーラ」で復活した盆踊りのように、地域の伝統行事を復活させます。
- 新規イベントの企画: 料理教室やアートワークショップなど、地域住民が参加しやすいイベントを定期的で開催します。
- 広報活動: 地域イベントの情報を広報紙や SNS で発信し、参加を促進します。

3, 多世代交流の促進

目的: あらゆる世代が交流できる場を提供し、地域の連帯感を強化する。

方法:

- 交流スペースの設置: リノベーションした施設に多世代が利用できる交流スペースを設置します (例: キッズスペース、高齢者向け休憩室)。
- プログラムの開発: 幼児から高齢者までを対象としたプログラムを開発し、定期的を実施します。
- ボランティア活動: 学生や地域住民によるボランティア活動を推進し、多世代間の交流を促進します。

4, 震災の歴史的背景の活用

目的: 震災の記憶を継承し、防災意識を高めるとともに、地域のシンボルとして活用する。

方法:

- **震災記念館の設置:** 震災の歴史を伝える記念館や展示スペースを設け、教育の場とします。
- **防災教育プログラム:** 震災の経験を基にした防災教育プログラムを開発し、地域住民や学校に提供します。
- **メモリアルイベントの開催:** 震災を忘れないためのメモリアルイベントを定期的に行い、地域の結束を図ります。

5. 情報発信と地域貢献

目的: 地域の魅力を広く発信し、地域活性化に寄与する。

方法:

- **ウェブサイトの活用:** 施設やイベントの情報を発信するためのウェブサイトを開発します。
- **SNSの利用:** SNSを活用し、リアルタイムでの情報発信や地域住民とのコミュニケーションを強化します。
- **地域連携:** 地元企業や他の地域団体との連携を強化し、協力体制を構築します。

これらの施策を通じて、「のじまスコーラ」の成功事例を本市に反映させ、地域活性化と住民の絆を深める取り組みを推進します。

